

第1学年国語科学習指導案

指導者 三豊市立詫間中学校 畑 裕貴

1 単元名

「A I を見る目～説得力を生み出す工夫とは何だろう～」

高槻成紀「オオカミを見る目」 (新しい国語1 東京書籍)

2 単元について

(1) 「オオカミを見る目(高槻成紀)」は、人の考えや行いが置かれた社会の状況によって変化していくことを、オオカミを例にとって説明している文章である。「ヨーロッパと日本」や「日本の今と昔」といった比較を例に挙げ、主張に説得力をもたせている文章構造や、「問い」とそれに対する「答え」が書かれた段落を明確にするなどの書き方の工夫が随所にある。

また、本単元は、A I による生成文を比較のための教材として扱う。近年話題となっている生成A I は、文章生成や情報収集の手段として大いに力を発揮するものであるが、危険性もある。これからの社会を担っていく生徒には、身近な存在になるであろうA I を活用し、それをどのように使いこなし、自らの意見をどう形成するのかを学習していくことが求められる。

生徒は「オオカミを見る目」と「A I による生成文」とを読み比べていくことで、説明的文章における書き方の工夫に迫ることができる。また、A I による文章の再生成を活動に取り入れることで、書き手としての自己との対話を図り、試行錯誤を繰り返しながら課題についての考えを深めていく、探究的な学習につながると考える。本単元を通して、学習指導要領〔思考・判断・表現〕における「C 読むこと」の指導事項「ア 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること」を中心に、社会で生きて働く読みの力の育成を図りたい。

(2) 生徒たちは「私のタンポポ研究」において、事実と考えとの関係を捉える学習を行っている。また、筆者の主張に説得力をもたせるための情報(非連続型テキストを含む)の読み取りを通して、確かな情報を根拠に意見を構築していく説明的文章の構成を学習できている。ただ、その情報をうのみにせず、主張を導くための事実としてふさわしい根拠であるかどうかについて検討する視点で読む力が必要になる。

また、A I による文章生成の体験をした際には、「A I を使うと良い文章が書ける」といった感想が多く見られた。確かに文章生成能力に長けているA I であるが、必ずしも完璧ではなく、課題も多く含まれている。文章内の情報の真偽を見極める力や、文章生成の命令を下す自分自身の文章構成の力が必要であることに気づくことが重要である。

(3) 以上を踏まえ、次の点に留意して指導する。

○ 「書き手」の意図を意識した単元構成

本単元では、「問いと答えの段落関係」「筆者の主張とその根拠となる具体例の整

合性」「根拠として提示する情報の吟味」を課題として設定し、A Iで生成された文章との比較を通して、文章構成の工夫に気づかせるだけでなく、そこから読み取れる文章の書き手の意図にも迫る指導を行いたい。

これまでの説明的文章の読解は、内容を把握し、筆者の書きぶりを評価するといった指導が中心であった。異なる教材を比較することで、批評に結びつける実践もあるが、そこにA Iによる文章生成が加わることで、A Iに命令を下す自分自身も、「書き手」として意識することになる。この「書き手」の意識が、筆者の主張に自然と目を向かせるのではないかと考える。また、筆者がどのような意図で構成や表現の工夫を行ったかを読み取ることもつながる。文章の要旨を理解できないとA Iに命令できないことから、「書き手」としての目線から、「主張や構成、表現の工夫を読む」ことを学習させたい。

○ 社会生活につながる題材の工夫

生徒がこれから生活していく社会では、A Iを活用するのが当たり前となり、A Iによって生成された文章に出会う場面も多いと考えられる。これから今まで以上に身近になっていくであろうA Iを題材にすることで、生徒の興味・関心を引き出すことができるのではないかと考える。

○ 授業の中で変容していく題材

本単元で題材の一つとして扱うA Iは、その場で即座に文章を生成することができる。異なる題材を比較する授業では、あくまでその題材の比較のみに終始してしまう。しかしA Iを用いることで、生徒の意見から授業の中で比較する題材を変化させながら授業を展開することができる。リアルタイムで生徒の意見を反映させながら行う学習は、主体的に探究的な学習に結びつくと考える。

3 単元の目標

- (1) A Iによる生成文との比較を通して、原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係や、比較や分類関連付けなどの情報の整理の仕方について理解を深めることができる。 [知識及び技能] (2) ア、イ
- (2) 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、オオカミについての具体例の精選について筆者の意図を考えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) ア、エ
- (3) 文章構成の工夫の効果について、自分の意見を粘り強く考え、学習課題について沿って考えたことを積極的に語り合おうとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① A Iによる生成文との比較を通して、原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係や、比較や分類関連付けなどの情報の整理の仕方について理解している。 ((2) ア、イ)	① 「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、オオカミについての具体例の精選について筆者の意図を考えている。 (C (1) ア) ② 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 (C (1) エ)	① 文章構成の工夫の効果について、自分の意見を粘り強く考え、学習課題に沿って考えたことを積極的に語り合おうとしている。

5 単元の学習指導計画（全5時間）

時	目 標	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> 二つの文章を比較し、どちらの論証に納得できるか、意見をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「オオカミを見る目」を通読する。 AIが生成した文章を読む。 本文とAIのどちらの論証に納得できるかを考える。 	〔主体的に学習に取り組む態度〕① <u>対話の様子、ノート</u> <ul style="list-style-type: none"> 自分と友達の意見をつなげたり比較したりしている。
2 ・ 3 (習得) (活用)	<ul style="list-style-type: none"> 比較や例示などの筆者の工夫に気付くことができる。 相違点の検討を通して、具体例に着目することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の意見を全体で共有する。 二つの共通点・相違点を見つける。 相違点を一つ取り上げ、検討する。(問いと答えの関係について) 別の相違点(欧米との比較、日本における変化などの具体例の有無)について、どちらが良いか意見をもつ。 	〔知識・技能〕① 〔思考・判断・表現〕① <u>観察・ノート</u> <ul style="list-style-type: none"> 文章構成や展開、表現の効果について理解し、それをもとに理由を説明することができている。
4 本時 (習得) (活用)	<ul style="list-style-type: none"> 比較を通して、説明的文章における筆者の工夫を評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の意見を全体で共有する。 再度生成された文章と比較し、再検討する。 具体例の価値や情報選択の意図について検討する。 	〔知識・技能〕① 〔思考・判断・表現〕① <u>観察・ノート</u> <ul style="list-style-type: none"> 文章構成や展開、表現の効果をもとにしながら、筆者の意図に迫りながら意見を記述できているか確認する。
5 (活用)	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習のまとめを通して、説明的文章の構成について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の論の展開や工夫について話し合い、最終の意見文を書く。 AIの長所・短所についてまとめる。 単元全体の学習を振り返る。 	〔主体的に学習に取り組む態度〕① 〔思考・判断・表現〕② <u>ノート</u> <ul style="list-style-type: none"> 文章構成や展開、表現の効果が適切であったのかを自分の言葉で記述し、学習の過程を振り返りながら、AIについても評価をしている。

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・ A I との比較を通して、文章構成の工夫に気づき、評価することができる。
- ・ 文章構成の工夫から筆者の意図を読み取ることができる。

(2) 学習指導過程

学習内容・学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援・評価
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> どちらの論証に納得できるか </div>		
<p>1 共通点と相違点について共有をする。</p> <p>2 比較で分かったことを参考に、どちらが良いかを考える。</p> <p>3 結論を同じにして A I に再度命令し、作成した文章と本文を比較する。</p> <p>4 最終意見を書く。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>【A I】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米では保護されている記述がある。 ・ 現在の日本ではオオカミに対する偏見があると記述がある。 ・ オオカミに関する体長などの情報が詳しく書かれているから、納得できる。 <p>【教科書本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本とヨーロッパの具体例があり、想像しやすい。 ・ 時代による比較を通して変化を見ることができる。 ・ まとめがあると、筆者の考えがわかる。 <p>【A I】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然との向き合い方についてまとめられており、こちらの方が訴えとして適切だ。 <p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時代による見方の変化や、国による見方の変化などの具体例が、まとめの主張と合っている。 <p>【A I】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米では今は保護されているという情報があるため詳しく書かれており、変化の例が多いほうが納得できると思う。 ・ 「考え方・見方が変化する」ことを伝えたいだけだから、オオカミの絶滅を強調させる必要はないと思う。 <p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A I には絶滅の例がないため、見方による変化の深刻さが伝わりにくい。 ・ 筆者はオオカミの被害を特に伝えたいと思う。ヨーロッパの今の例は、オオカミの被害を訴えるためには無いほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A I にはないものだけでなく、A I にしかないものも考えさせる。 ・ 主張に説得力をもたせるための具体例として、オオカミの体長などの情報がふさわしいか問いかける。 ・ 読み方カードを提示し、読む際の視点の参考にさせる。 ・ 結論の違いに着目させる。 <p>A I : 自然との向き合い方 本文 : 人間の物を見る目の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A I に再度命令をする際に、何を指令すればよいかを考えさせる。 ・ 再生成した文章を Google Classroom で生徒と共有する。 ・ 「ヨーロッパの今」は必要であるかを考えさせる。 ・ 変更された箇所を確認させ、それが文章においてどう影響するかを考えさせる。 ・ 再生成で変更された部分にラインを引き、視覚的に分かりやすくする。 ・ 二つの文章を比較する際に、構成や表現の工夫を二つ根拠として挙げさせ、そこから読み取れる筆者の意図を記述できているかを評価する。(Bと判断する状況) ・ Cと判断する状況の生徒に対しては、相違点を再度確認させ、それが主張を伝えるために必要かどうかを考えさせる。